

プレーヤーとそのコーチのための

知っておきたいバドミントンのルールやマナー

北海道バドミントン協会 競技委員会
北海道バドミントン協会 審判委員会

■ 正しい競技規則を理解しましょう。

競技規則などは、例年、追加や更新が行われています。[公益財団法人日本バドミントン協会のホームページ](#)に現行の競技規則が掲載されています。



■ 大会出場の際の競技用ウェアには決まりがあります。

プレーヤーは、相手または観客に不快な感じを与えないように、競技中、競技用ウェア、シューズを着用することになっています。審査合格品を着用しなければなりません。(大会運営規程第23条)

■ プレーヤー、コーチの着衣上の表示には決まりがあります。

プレーヤーまたはコーチの着衣上の背面、広告、ロゴなどの表示に関する取り決めがあります。競技用ウェアに背面表示などを入れる際は、文字列の大きさや表示できる範囲を確認してください。また、文字などの色は、ウェアの色と明確に区別できるものにしなければなりません。(大会運営規程第24条)

■ コーチ席に座る際には、マッチにふさわしい服装で臨む必要があります。

コーチも、マッチにふさわしい服装で臨まなければなりません。

(公認審判員規程 第5条第12項(8))

ふさわしい服装	認められない服装
○ チームユニフォーム	× Tシャツ (長袖Tシャツも×)
○ シャツ ○ ポロシャツ ○ ブラウス	※チームTシャツは可
○ ゲームシャツ (他チームの背面は×)	× ハーフパンツ × 7分丈パンツ
○ 長ズボンまたはスカート ○ 運動靴	× ジーンズ × スリッパ × サンダル

※大会によっては、上記とは別にレフェリーが定める場合もあります。

■ マッチ (試合) の際は、ラケットバッグなどに持ち物をまとめましょう。

タオル、ドリンクなどはラケットバッグの中に入れてください。ただし、交換用のラケットはバッグの上において準備することが認められています。また、バッグは審判台の近くに置きましょう。



■ 審判員の判定に質問ができるのはプレーヤーのみです。

次のサービスがなされる前に限り、主審に質問することが認められています。ただし、抗議あるいは異議であってはなりません。なお、団体戦の場合は、当該プレーヤーと監督に限り質問することが認められています。(コーチは×) (大会運営規程 第6章 第36条)

■ 競技フロアにおける撮影はできません。

ベンチやコートサイドからの撮影(スマートフォン、タブレット、カメラなどによる)はできません。レフェリーに許可を得た報道機関や関係者のみが撮影することができます。

■ バドミントンに「セット」という用語はありません。

選手やコーチは、競技規則にある正しい用語を使いましょう。

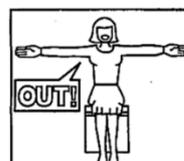
正しい用語の例	誤った用語の例
○ ゲーム	× セット
○ ラインジャッジ (線審)	× ラインズマン
○ チェンジエンズ	× チェンジコート

■ 主審をするときの「スコアシートの記入方法」を覚えましょう。

競技規則(諸規程集 通称「赤本」)にある記入例などを参考に記入方法を覚えましょう。簡単な記入例が北海道バドミントン協会のホームページにあります。

■ 線審をするときの正しいシグナルを覚えましょう。

アウトのとき	大きな声で「アウト」とコールし 両腕を水平に広げて主審に合図する。
インのとき	無言で、右手でそのラインを指す。



※線審はシグナルと同時に主審を注視(アイコンタクト)しましょう。(公認審判員規程 第8条)

■ 対戦相手や審判員(主審・線審)、競技役員をリスペクトしましょう。

プレーヤーとして求められること 競技規則などで求められるもの	マナーとしてふさわしくないこと 競技規則などで認められないもの
○ 最新の競技規則などを理解する	× 主審や線審に対して横柄な態度をとる
○ 対戦相手とあいさつや握手をする	× ネットをたたく
○ 審判員と握手をする	× 相手に向かって叫ぶ、ガッツポーズをする
○ 会場をきれいに使用する	× 相手へのリスペクトを欠く応援やかけ声